

Ikhoi

BRAND

憩写真帳

Vol.11

裏街の憩

フォトバイ: 沼田元氣

裏街の憩い

沼田元氣

街の裏側をもって裏街というのであれば、裏街に対するのが裏街でございます。表街は、そこに防れる人にとっての街、すなわち都市の玄関のような、応接間のような、よそいきの顔なんでございます。対する裏街は、勝手口や台所のような、普段着のなじみの顔でございます。

表街の表通りと申しますのは、たいがい明るくって、活気があって、小綺麗で、来しげな風でございますが、表街も一歩裏通りに入ってみますと、その違いにおもわず本性みたりして、嘘つきと云いたくなるような落着けにガツカリすることがございます。ところが、裏街なるものは、はじめつかしよせん裏街であるところがタカをくくってらっしゃるのか、裏通り表通りの違いがあまりございませぬ。それどころか裏へ入れば入る程その隠し持った静かなエナジに、又汚らしくも風情ある佇まいに惚れ／＼してしまふんでございます。世の散歩家諸氏が口を揃えて、「だからやめられない」と言理由は、そんな街裏にふと迷い込んでしまふ楽しみを期待してやまないコトに他ならないんでございます。

美しい生活があれば、おのずとそこに美しい街が展開されている。それは一見何でもないことでも、洗濯物の干し方一つ、生活道具のちらかり方一つ、雑草のはえ方一つとっても、御解りになる人には御解りになる。しかるに、その様な風景を写真というもので切り取ってくると、なんとも映画や居のセットめいてしまふばかりか、安っぽいジャアナリズムや社会派写真になつてしまふことがよくございます。

それではかんじんな伝わるべき物が伝わらない。一等大事なのは、實際その中に居て、時間を共にし、臭いをかき（他人の領土、見知らぬ土地でありながら）懐しくも憩つてしまふということなんでございます。しょう。

Photo by
G. Numata



























[illegible]

谷崎潤一郎著「撒陽隨筆」より





データ/FUJICAGS B45 FUJINON 75%

